

かわぐち消化器内科

第11回 意外と多い大腸憩室炎



院長 川口 義明

憩室とは消化管の壁の一部が内側から外側に向かって袋状に突出したもので、特に大腸に多く、大腸憩室と呼ばれています。大腸憩室があるというだけでは治療の必要はありませんが、炎症や出血を起こした場合に治療が必要となります。便が憩室にはまり、細菌感染を起こしたものが大腸憩室炎です。主な症状は持続する腹痛で、発熱や体動でひびくこともあります。腹痛の部位は憩室の場所によりますが、左下腹部(S状結腸)や右腹部(上行結腸)が多いです。右下腹部痛の場合は、虫垂炎(いわゆる盲腸)との鑑別が必要です。血液検査で炎症所見(白血球やCRP)が高くなります。エコーやCT検査で診断可能です。軽症では抗生剤内服治療(通院)、重症では入院が必要になります。再発する場合がありますので、原因の一つとされる便秘には注意しましょう。いつもと違う持続する腹痛は憩室炎かもしれません。



かわぐち 消化器内科

TEL 045-830-5311

港南区港南台5-23-30
港南台医療モール3F



〔診療時間〕

午前9:00-12:00

午後16:00-18:00

〔休診〕

木曜・日曜・祝日

(土曜午後)

